

①氏名：山田 和敏 YAMADA Kazutoshi

②教育・研究指導分野：地域経済の数量分析 Quantitative Analysis of Regional Economy

③これまでの主要研究業績等

論文

- ・「家計消費を内生化した産業連関モデルによる中国産業構造の分析」、久留米大学経済社会研究会、『経済社会研究』、第 55 巻、第 1・2 合併号、pp.41-57、2014 年。
- ・「日本の少子高齢化の現状と今後」(原田康平氏との共著)、駄田井正・原田浩平・王橋編『東アジアにおける少子高齢化と持続可能な発展』第 3 章、久留米大学経済叢書、第 17 巻、新評論、2010 年。
- ・「計量経済モデルの作成」、新谷正彦・山田光男編『計量経済学』第 8 章、勁草書房、2007 年。
- ・「情報サービス企業の生産関数分析 ～集計公表データ、マイクロデータおよび疑似パネルデータ利用による比較検証～」(新谷正彦氏との共著)、松田芳郎他編著『講座マイクロ統計分析 企業行動の変容～マイクロデータによる接近～』6.1 節、日本評論社、2003 年。

他

⑥終了院生のこれまでの研究テーマ

主査担当のもののみ

- ・邵 丹、「中国経済におけるエネルギーと経済の現状分析」、2004 年 9 月、セメスター論文 (他 3 篇)。
- ・金彤彤、「中国における外国からの直接投資の状況とその決定要因について」、2004 年 1 月、セメスター論文 (他 3 篇)。
- ・趙 明、「中国における日本の ODA の経済効果」、2008 年 1 月。
- ・石岩明、「中国におけるサービス貿易の比較優位について」、2012 年 1 月。
- ・黄 俊、「発展途上国としての中国」、2012 年 1 月。
- ・何兆文、「中国経済とエネルギー問題」、2010 年 1 月。
- ・朝勒孟、「日本の労働市場」、2010 年 1 月。
- ・曹峙偉、「産業連関表による中国経済の分析 ——製造業を中心として——」、2014 年 1 月。
- ・孫曉玲、「中国における消費者行動の分析」、2014 年 1 月。
- ・王 鑫、「中国経済発展にともなうエネルギー消費量の要因分析」、2014 年 1 月。
- ・劉潤峰、「VAR モデルを用いた中国における CPI、GDP および M2 の相互依存関係」、2016 年 1 月。

他

⑦最近 5 年間の指導院生延べ人数等

前期博士課程院生 7 名

⑧社会や地域への貢献

九州経済学会理事、会長 (H29～)

⑨社会や地域貢献が期待できる研究や教育分野

地域経済の数量分析

⑩その他